

建仁寺〔五山の其箇なり、大和大路四条の南にあり〕建仁二年源頼家公、榮西禪師を延て地を王城の東に施し大禅苑

を營、真言止觀の二院を構へ官寺とす。〔已上元享釈書〕開祖榮西禪師〔明庵と号す〕備中吉備津の人、其先は賀陽

氏にして薩州刺史貞政の曾孫なり、薙髮し廿八歳の時、仁安三年夏四月商船に乘じ瀛海に泛んで、宋国明州界に着し、

嗣法を虚庵敵和尚に請て、建久二年四月に帰朝し当山を開き、建保三年七月五日寂す、年七十五。

仏殿〔釈迦、弥勒、弥陀〕

土地堂〔土御門院神牌、源頼朝像、頼家像、実朝像を安ず〕

開山堂〔開山榮西禪師像、脇士天童を安ず。額、華嚴世界、土御門帝宸筆〕

方丈〔正觀音を安ず、東福門院御寄附〕大悟堂〔禅堂をいふ文珠菩薩を安ず〕

鎮守楽大明神祠〔備中吉備津社の末祖、開山の両親を祀祭る〕

無尽燈〔禅居庵にあり、摩利支天尊を安ず、唐土大鑑禪師の作、土仏の像〕

赤松円心塔〔大龍庵にあり〕

○当山十景〔清拙和尚の頌あり〕

慈視閣〔方丈〕 望闕楼〔山門〕 大悟堂〔僧堂〕

群玉村〔衆寮〕 入定塔〔開山塔〕 樂神廟〔鎮守〕 無尽燈〔禅居菴〕

清水山

第五橋

鴨川水

○扁額 三世如来殿 (仏殿)

清涼軒 (方丈)

拈華堂 (法堂)

悦可 (維那寮) 首座 (前板)

夢升 (後板)

等慈 (書記)

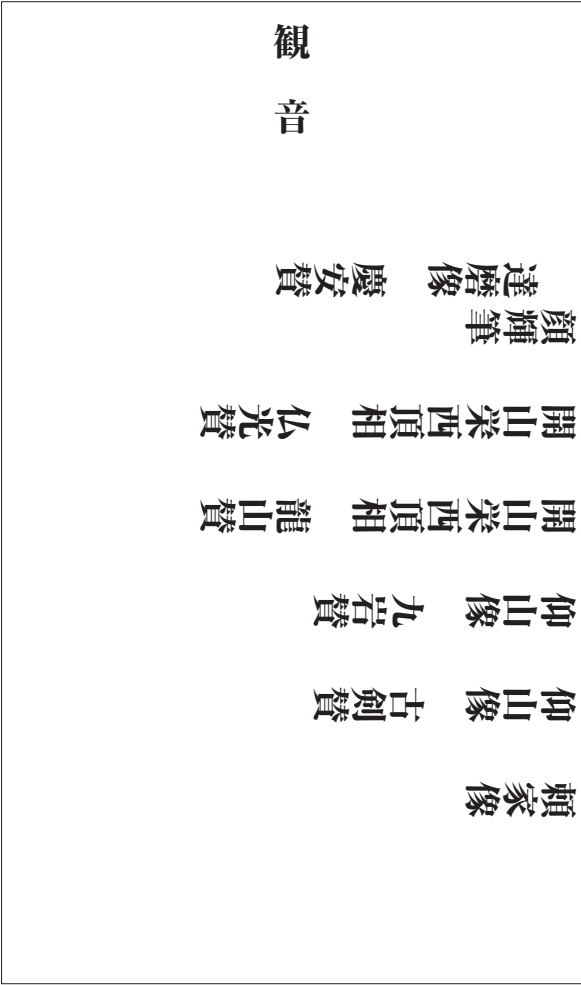
龍藏 (東藏) 虎林 (西藏)

春会 (知客)

希真 (侍香)

○蛭見祠〔門前にあり。例祭九月十六日、祭礼魏々として神輿一基あり〕

建仁寺画墨晒掛虫干図 方丈



北

猿猴 松
牧溪筆

開山明庵像 自贊

猿猴 松
牧溪筆

叭々鳥 同筆

觀音像 月壺筆

叭々鳥 同筆

藥山 接李■ 牧溪筆 為建仁方丈□

觀音像 月壺筆 宝徳辛未六月十八日謹画□

黄龍 接呂洞賓 牧溪筆 三軸共作之真相□

後水尾院

觀音堂

御教書

〔什宝数品あり、繁によつて略之〕

○正伝院〔十一世義翁和尚、龜山院文永年中建。其後慶長の頃織田河内守長益再興、元和七年十二月十三日卒、正伝院有樂如庵と号す〕

書院 中間(蓮鷺) 西間(唐田獵) 古法眼筆

東間(耕作) 余間(山水) 同筆

数寄屋 織田有樂の好 額如庵

○靈洞院〔廿六世高山和尚開基、後醍醐帝元応年中建立〕

〔其外塔頭林泉名画あり略之〕